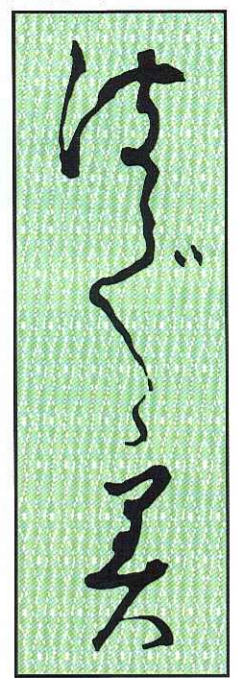


大分県PTA



発行所 大分市下郡字長谷496の38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 ☎(097)556-9055 http://www.oita-pta.com/ 責任者 富永大輔 印刷所 大分市高江西1丁目432番25 いづみ印刷株式会社



子どものための ふる里づくりを

富永県P連会長インタビュー 保護者心得六箇条に込めた思い

教育長に要望書提出

「中学校3年生学力診断テスト」 継続実施について

富永大輔県P連会長は、昨年12月15日、野中・信孝県教育長に対し、平成24年度における「中学校3年生学力診断テスト」継続実施についての要望書を提出した。実施から5年を経過したが、平成24年度についても16郡市PTA連合会（育友会）からの要望を受けて行った。



要望書提出後、意見交換を

学力診断テストは、普通科高校全県一区導入に伴う進学資料（行きたい学校に行けるためのデータ）として、進路選択の参考になり得るものである。また、富永会長と野中教育長は、大分の子どもの教育についてそれぞれの立場で取り組むことを話した。



教育について熱く語る 富永県P連会長

県P連は、大分県の子どものために、という思いのもと、さまざまな活動を行っている。県P連会長として現在3年目の富永会長。これまで会長として保護者心得六箇条の策定、大分県教育の日推進会議会長就任など、精力的に取り組んできた。今回は、会長としての思いや課題、これからの抱負を聞いた。

3月11日の東日本大震災後、県P連の呼びかけに応じ会員から多くの義援金が集まりましたが、会長、皆様の温かいご支援、ご協力、この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。震災の映像を見た時、最初に頭に浮かんだのは文具等流され買えない子どもへの支援でした。でも後から親を失った子や天涯孤独になってしまった子どもたちが、高校や大学に行きたくても頭が浮かびません。日P（日本PTA全国協議会）で情報交換した時に、

人としての教育にも力

神戸の震災で親を失った子どもも全国の支援で大学に進学することができたこと、聞きまし。あしなが育英会なども活動していますが、これをPTAがやってもいいのではないかと。親を失った子どもたちにも進学の支援をしていけたら、と思っています。自分の身に置き換えて考えたとき。もし災害で自分の子どもが一人ぼっちになり進学も諦めなければならぬことになったら。そう考えると本当に辛いですね。県P連も日Pを通して被災地のPTA協議会に約440万円送っています。その後も県Pに義援金約240万円集まっています。今後も継続して支援したいと思っております。よろしくお願いします。

保護者心得六箇条を策定してから3年目に入りましたが、会長、先生方と一緒に、こんな子どもに育ってほしい、と思いが、私たちが先生方も手本となって育てていければ、と思っています。子どもは親の鏡であり社会の鏡です。子育てに悩んだ時に六箇条を見て参考にもらえる



「おおいだ教育の日」推進大会（昨年11月1日）

「おおいだ教育の日」推進大会。PTA活動も社会活動もどうせやるなら楽しくやりましょう。いろいろな人とふれあいながら地域とも密着できます。生まれ育った所とは違っても自分の新たな郷里になり、そこが子どものふる里になっていくわけですね。PTA活動をしてから私自身も、子どものふる里を守ってあげたい、作ってあげたい、という思いが強くなりました。

「おおいだ教育の日」推進大会。PTA活動も社会活動もどうせやるなら楽しくやりましょう。いろいろな人とふれあいながら地域とも密着できます。生まれ育った所とは違っても自分の新たな郷里になり、そこが子どものふる里になっていくわけですね。PTA活動をしてから私自身も、子どものふる里を守ってあげたい、作ってあげたい、という思いが強くなりました。

大分県教育の日推進会議長に今年就任しました。会長としての思いは？

子どもは自分の鏡です。PTA活動に関われるのは小学校、中学校合わせて9年間です。限られた時間の中で子どもや周りの方を大切にしながら、自分を磨くこともできます。ぜひ楽しくPTA活動をしてほしいと思います。

研心北

①大きな声で挨拶する人になろう②身のまわりを整頓する人になろう③なに事にも集中する人になろう。こんな心を持つ人は、正しく美しい文字が書けます。これはわが泰清書道館の児童生徒に送った賀状の文である。教職に就いて以来今日まで52年間一貫した私の信念でもある。過日県書協の表彰式に出席。祝辞中に返事は大きな声でと願ったが期待は外れた。170名の競書大会を勝ち抜いた200名です。NOなのである。「ハイ」の一声はその人の感謝の心全てを凝縮している最短最良の言葉である。要するに時と場に応じた挨拶ができて欲しい。当日、家を発つ時、事前指導があったのだろうか。「ハイ、おはよう」が家族同志でしっかりと日常化してなければ、他所や緊張場面で大きな声で挨拶できる筈がない。国字（漢字と違う）の最高傑作に「羨がある。身を美しくの意だ。死語？和洋裁の羨糸の羨だ。型崩れ防止の縫製工程の一つである。人の完成にも羨の過程が要る。きっちりした羨の後にはきっちりした社会生活のできる人が育つ。スリッパを揃えて。廊下は右側をの校内の貼紙は不要。生活の羨は家庭で、学習態度の羨は学校でとPとTの役割を明確に。今頃は卒業式の練習中？小6、中3年生は式でどんな「ハイ」を発声するのだろうか。幼い頃、小学生の頃、すっかり大人びた中学生時代。その時々々のしつけをして下さった両親、家族、友達、先生、地域の方々への感謝とお礼の心をこめた丹田からの最後の一声で栄えある卒業の証書を受けて欲しい。挨拶、整頓、集中のできる人は字は元より、正しく美しい人生が書ける。

第35回 大分県PTA 広報紙コンクール

1年の成果をお待ちしています

締切 平成24年 3月22日(木)
審査日 平成24年 4月 5日(木)
表彰式 平成24年 4月19日(木)

※応募対象※ 県下の小・中・特別支援学校PTAで年3回以上定期発行した広報紙(号外を除く)。〈平成23年4月から平成24年3月発行分〉審査部門は小学校と中学校の2部門とする。

「第35回大分県PTA広報紙コンクール」出品についてのお願いは各郡市PTA連合会事務局を通し単位PTAに送付しています。

PTA研究大会 佐伯市大会

なかに 協育の輪を

第20回大分県PTA研究大会佐伯市大会が1月29日(日)開催され、県下より関係者約1200名が参加。

「いつも子どもを『まんなか』に 夢と希望と愛を求めて」を研究主題に「九州一広い佐伯から、今、とどげよう親の姿 見つめよう子どもの姿」の大会スローガンのもと、佐伯文化会館大ホール他全4会場で行われた。オープニングセレモニーでは、県P連役員・母親代表が佐伯市内の幼稚園児・小学生と共に、未来に希望を込め『勇氣100%』にのせてダンスを披露し会場を盛り上げた。またその後のアトラクションでは、関西京都今村組の小・中・高校生による『ダンスライブ』が行われ大会に華を添えた。



開会宣言をする三浦圭二佐伯市P連会長

全体会

開会式で富永大輔県P連会長は、まず昨年の東日本大震災に触れ「3月11日からまもなく1年が経とうとしている。被災地の復興を願う皆様方から多くの義援金が集まったことに感謝している」とお礼を述べた。また「現在では心の教育の充実が大きな課題であり、家庭・学校・地域をつなぐ要として大きな期待がPTAには寄せられている。教育の原点は家庭であることを再確認し、子どもとの関わりを考えていくために、参加者の

有難い。家庭・学校・地域が一体となって子どもたちを守るつなぎめとなるのはPTA。皆さんの活発な活動を祈念する」と述べた。

次期開催地の津久見市に大会旗が引き継がれた後、関西京都今村組代表である今村克彦氏による記念講演が行われた。巧みな話術で聴衆を惹きつけながら子どもたちへの熱い思いとまっすぐに向き合う姿勢に共感と感動が広がった。

第1分科会 組織運営 学校・地域と 連携した組織づくりを

「笑顔あふれる子育て仲間」をテーマに約160名が参加し討議。

石堂浩之中津市立山口小學校父親部会部長、廣池隆光副部長は「父親」「子ども」「地元(自然)」をつなぐものとは何か」と題し発表。「自然にめぐまれており学校から2〜3kmの範囲で活動ができる。魚釣り大会では、前年度に拾ったどんぐりでエサの虫を育て、切った竹で釣り竿を作り、自分で釣った魚をさばき、食べる。なんでも親子で作ることで費用はほとんどかからない。父親同士のコミュニケーションを図りPTA活動や地域活動に進んで参加する環境を作っている」と報告。



特色ある活動を提言

第2分科会 家庭教育 親子のつながりを PTA活動から

「親は身近な社会人」をテーマに約160名が参加し討議した。

久保美恵佐伯市立木立小学校P副会長は「おれの背を見ろ!木立っ子!」と親から子に伝える生きる力」と題し発表。「時代の流れとともに親子や地域とのつながりが薄くなりつつある。地域の伝統や風習を盛り込んだ「木立版お宝マップ」を活用した「木立小祭り」をはじめ、親同士の交流を深める「子育て合コン」などを通して、広がりのあるつながりがあった活動となった。特に子どもたちは大人と

一緒に体験したことは強く印象に残り、大人の姿をよく見ているように感じた。今後子どもたちに恥じない背中を見せる活動をしていきたい」と報告した。

討議では「お宝マップ」の活用方法、おやじくらぶや父親をサポートしようなど発案したマミーズクラブの活動などについて関心が集まった。

古屋啓雄佐伯市立木立小学校長は「人とつながる力を教えていく私たちが大人が努力し子どもと接していくことが大切。そこでアンケート調査、保護者の仕事との関わりを通

子どもの笑顔に 充実を感じて

次に、千木政見佐伯市立彦陽中学校P会長は「子どもを取り巻く、学校・家庭・地域による三位一体PTA活動」と題し発表。「PTAのAをアソシエーションではなく地域を表すエリアのAと定め活動。地域との関わり成果として、伝統の祭りの参加や河川愛護デーの取り組みで、普段学校と情報を共有してほしい。子どもと一緒に活動し、直接体験を重ねていくことが重要では」と指導助言した。

馬場尚登県教育庁社会教育課社会教育主事は「メンバーの固定化や外部への発信など問題は出てくると思うが、それぞれの環境の違いに応じて学校と情報を共有してほしい。子どもと一緒に活動し、直接体験を重ねていくことが重要では」と指導助言した。

第3分科会 学習活動 子どもと学び 広げる取り組み

「親の学びは子どもが教科書」をテーマに約160名が参加し討議。

小手川奈津子九重町立飯田小学校P副会長は「伸びのび飯田っ子を育てる会(こども園・小・中合同PTA)」と題して発表。「地域のいろいろな立場の人たちが手を取り合って、飯田の子どもたち全体の健全な育成を目指していこう」という有志の働きかけから作られた。講演会、読み聞かせ、親子登山や運動会など、校区

「親の学びは子どもが教科書」をテーマに約160名が参加し討議。

「親の学びは子どもが教科書」をテーマに約160名が参加し討議。

「親の学びは子どもが教科書」をテーマに約160名が参加し討議。

「親の学びは子どもが教科書」をテーマに約160名が参加し討議。

大人と子どもが 思いを共有

次に、百木健大分市立王子中学校P会長は「子どもに学ぶ親の学習活動とはどうあるべきか」をテーマに発表。

「本年度王子中Pは、時を守り、場を清め、礼を正す」をキーワードに活動。その中でも場を清め(掃除すること)に重点を置き、取り組みできた。王中クリーンレンジャー活動(トイレ掃除)を通して自ら進んで取り組む前向きな気持ちや思いやりと感謝の気持ちを育んでいきたい」と報告。

質疑応答では、保護者と子どもとの接し方やイベントの組み方、「礼を正す」の説明など、活発に質問された。

討議では、子どもと親の学習活動のあり方や参加者の集め方など意見交換された。

大司教佐伯市立渡町台小学校長は「ユニークな発表の形で、P活動が楽しくなってきた。P活動が楽しくなってきた。単なる掃除ではなく、教育の場として一緒に学習していくすばらしい」と指導助言した。



発表に聞き入る参加者

接し方を改めて考える必要がある。活動への理解と互いの成長につながるため今後も続けていきたい」と報告。

討議では、アンケートについて「調査前と後で親子の関係に変化はあったか」等の質問が出され、親子の関わりについても意見交換された。

石井圭一郎県教育庁社会教育課社会教育主事は「アンケートからいろいろと気づくことも多くPTA活動を見直すきっかけになる。今後につなげて」と指導助言した。

記念講演 (講演要旨)

『夢のを見つけ方教えたるⅡ』

今村 克彦 (関西京都今村組グループ代表
日本共育プロジェクト代表理事)



プロフィール

小学校教師としての24年間の現場実績を踏まえ、また学校で生きられない子どもたちも含め、様々な子どもたちと関わり続けている。従来の「教育」とは一線を画した、共に育ち合う「共育」を提言。

1997年
ダンスチーム関西京都今村組 結成

2006年 3月
京都府教職員 退職

2008年 3月
『夢のを見つけ方教えたる』
フジテレビにてドラマ化

2011年 7月
一般社団法人
日本共育プロジェクト設立
代表理事就任



魂のこもった関西京都今村組のダンス

「伝えられない苦しい現実」 子どもたちは言葉も多くは持っていない。それが子ども。その少ない言葉の奥にどんな意味があるのか読みとってやらないとつき合っていくけない。

「ほんまやな。俺もそう思っわ」 甘やかしている訳ではない。自分たちもそうだったと、自分に置き換えて考えようと、子どもにかける言葉も変わる。これが受け入れられるということ。共感するということ。

第20回 大分県

子どもをまん



役員と子どもたちによる楽しいダンス

第4分科会 健全育成・地域活動

広がる地域で探る 子育ての転換

「地域で育てる未来の宝」をテーマに約160名が参加し、校P会長は「田野つ子がつなげる地域の輪」と題し発表。「田野つ子班」活動で縦割り班に分け、児童会行事や栽培

活動、清掃活動などを行っている。地域の方とのふれあいも多く、保護者も子どもたちとともに、校区清掃活動や、ふるさとふれあい祭りで、コマ回しなどの昔の遊びやゲートボールなどの軽スポーツを行った。また、子どもたちが育てたさつまいもで大学芋などをつくり、祭りに集まった方々への販売やバザーを行ない地域の学校として身近になつていく。学校は24年度に閉校となるが、地域ぐるみでの教育支援活動継続や連携強化をこれからも図っていくと報告した。

第5分科会 人権教育・教育問題

体験学習で 共に語り学ぶ姿勢を

「とどげよう親の姿見つめよう子ども姿」をテーマに約160名が参加し討論。佐藤美枝子竹田市立緑ヶ丘中学校P研修委員長は「地域と学校で共に学ぶ人権教育と親子人権講演会を通して」と題し発表。昨年度は年間を通して障がい者の人権をテーマに学習し、深く考え理解する機会となった。「親子講演会」

「子はカマエの宝」を合い言葉にした取り組み」と題し発表。「学校行事やPTA活動、地域との連携を通し、子はカマエの宝」を合い言葉に学校とPTAが連携して活動をすすめている。小学生との夏休み交流会では、調理活動のサポーターとして、また地域との連携を通じた健全育成

特別分科会 パネルディスカッション

学力向上は 子どもへの関わりから

「佐伯型の教育とは、確かな学力を求めて」とをテーマにパネルディスカッションが行われた。約400名が参加。はじめに、佐々田三秋田県由利本荘市教育委員会教育長が「学力向上と保護者の役割」と題して講演した。「子どもに対して戦略・作戦を立てることは必要。見つけ、関わり、伝えます。これが問われるのは家庭のあり方ではないか。家庭での5つの作戦として、バス(入浴・食事)の時の誕生日にメッセージカードを置く心遣い、デスク(子ども部屋で勉強せず。母親の調理する音を聞きながら)を合言葉に、子どもはカマエの宝」を合い言葉に学校とPTAが連携して活動をすすめている。小学生との夏休み交流会では、調理活動のサポーターとして、また地域との連携を通じた健全育成

それぞれの立場で 情報発信を

ミニ講演の後パネルディスカッションが行われた。コーディネーターは鶴本秀明佐伯市立大入島小学校校長が務めた。(意見抜粋)

● 学力向上のためにはアドバンスが重要。ほめて次に何をすればよいかを示す。時に



討議が深まるパネルディスカッション

● 佐伯市P連主催で「教育を考えると、話し合いを深めることが大切では」というコーディネーターの言葉で幕を閉じた。

自主性を育む 協育環境

次に、久々宮克也佐伯市立本匠幼稚園・小学校P会長は「学校と連携した家庭学習・生活習慣の定着を目指すPTA活動」親子で取り組む自主学習ノートの推進をとおして」と題し発表。「家庭学習の習慣づけと学力向上に向け家庭・学校が連携して取り組み

は伝統行事参加などに積極的な力を入れている。子どもたちも、地域の一員としての姿を見せ、成果を上げていく。28年度には、小中一貫校として生まれ変わる本校を見据え、子どもたちの健全育成を図っていききたいと報告した。討議では、中学生の地域行

● 保護者と教員がお互いに気持ちや伝えられるような信頼関係を築けたらよいのでは。その他、佐伯市の小中一貫教育や生活習慣と学力の相対関係などについても活発に討議がなされた。最後に、保護者と学校・行政が地域と手をつなぎ、話し合いを深めることが大切では、というコーディネーターの言葉で幕を閉じた。

● 保護者と教員がお互いに気持ちや伝えられるような信頼関係を築けたらよいのでは。その他、佐伯市の小中一貫教育や生活習慣と学力の相対関係などについても活発に討議がなされた。最後に、保護者と学校・行政が地域と手をつなぎ、話し合いを深めることが大切では、というコーディネーターの言葉で幕を閉じた。

● 保護者と教員がお互いに気持ちや伝えられるような信頼関係を築けたらよいのでは。その他、佐伯市の小中一貫教育や生活習慣と学力の相対関係などについても活発に討議がなされた。最後に、保護者と学校・行政が地域と手をつなぎ、話し合いを深めることが大切では、というコーディネーターの言葉で幕を閉じた。

● 保護者と教員がお互いに気持ちや伝えられるような信頼関係を築けたらよいのでは。その他、佐伯市の小中一貫教育や生活習慣と学力の相対関係などについても活発に討議がなされた。最後に、保護者と学校・行政が地域と手をつなぎ、話し合いを深めることが大切では、というコーディネーターの言葉で幕を閉じた。

● 保護者と教員がお互いに気持ちや伝えられるような信頼関係を築けたらよいのでは。その他、佐伯市の小中一貫教育や生活習慣と学力の相対関係などについても活発に討議がなされた。最後に、保護者と学校・行政が地域と手をつなぎ、話し合いを深めることが大切では、というコーディネーターの言葉で幕を閉じた。

● 保護者と教員がお互いに気持ちや伝えられるような信頼関係を築けたらよいのでは。その他、佐伯市の小中一貫教育や生活習慣と学力の相対関係などについても活発に討議がなされた。最後に、保護者と学校・行政が地域と手をつなぎ、話し合いを深めることが大切では、というコーディネーターの言葉で幕を閉じた。

● 保護者と教員がお互いに気持ちや伝えられるような信頼関係を築けたらよいのでは。その他、佐伯市の小中一貫教育や生活習慣と学力の相対関係などについても活発に討議がなされた。最後に、保護者と学校・行政が地域と手をつなぎ、話し合いを深めることが大切では、というコーディネーターの言葉で幕を閉じた。

● 保護者と教員がお互いに気持ちや伝えられるような信頼関係を築けたらよいのでは。その他、佐伯市の小中一貫教育や生活習慣と学力の相対関係などについても活発に討議がなされた。最後に、保護者と学校・行政が地域と手をつなぎ、話し合いを深めることが大切では、というコーディネーターの言葉で幕を閉じた。

● 保護者と教員がお互いに気持ちや伝えられるような信頼関係を築けたらよいのでは。その他、佐伯市の小中一貫教育や生活習慣と学力の相対関係などについても活発に討議がなされた。最後に、保護者と学校・行政が地域と手をつなぎ、話し合いを深めることが大切では、というコーディネーターの言葉で幕を閉じた。

● 保護者と教員がお互いに気持ちや伝えられるような信頼関係を築けたらよいのでは。その他、佐伯市の小中一貫教育や生活習慣と学力の相対関係などについても活発に討議がなされた。最後に、保護者と学校・行政が地域と手をつなぎ、話し合いを深めることが大切では、というコーディネーターの言葉で幕を閉じた。

● 保護者と教員がお互いに気持ちや伝えられるような信頼関係を築けたらよいのでは。その他、佐伯市の小中一貫教育や生活習慣と学力の相対関係などについても活発に討議がなされた。最後に、保護者と学校・行政が地域と手をつなぎ、話し合いを深めることが大切では、というコーディネーターの言葉で幕を閉じた。

● 保護者と教員がお互いに気持ちや伝えられるような信頼関係を築けたらよいのでは。その他、佐伯市の小中一貫教育や生活習慣と学力の相対関係などについても活発に討議がなされた。最後に、保護者と学校・行政が地域と手をつなぎ、話し合いを深めることが大切では、というコーディネーターの言葉で幕を閉じた。

● 保護者と教員がお互いに気持ちや伝えられるような信頼関係を築けたらよいのでは。その他、佐伯市の小中一貫教育や生活習慣と学力の相対関係などについても活発に討議がなされた。最後に、保護者と学校・行政が地域と手をつなぎ、話し合いを深めることが大切では、というコーディネーターの言葉で幕を閉じた。

教育問題懇談会

子どもたちのよりよい教育環境をつくるために

平成23年度



あいさつする野中信条県教育長

各都市P連の要望内容の中から、各理事が重点化して意見を述べた。(抜粋して掲載)

児童生徒の学力向上について

義務教育の終了時(中学卒業時)に、すべての子どもたちに最低限の学力をつける。それが、社会に出た時、学習し直したい時に学習できる基盤となる学力となる。

習熟の差を生まない授業を目標としている。理解の遅い子どもにも補充してほしいとお願いをしている。観点別評価のB(概ねできる)を目指す。学力向上支援教員を配置し、子どもたちがねらいに到達したかまでチェックしている。1時間の完結型の授業をしている。授業が確実に変わってきている。

道徳教育の推進について

「道徳の時間は週一時間しかない」ので大切にしたいと各学校にお願いしている。各学校に道徳教育推進教員を配置し、道徳教育の推進を図っている。

県P連では、毎年各都市P連より出された要望事項を県教委に示し、教育問題解消に努めてきた。今年度は平成24年1月19日、大分県庁において開催された。県教委からは野中信条県教育長をはじめ関係各課より13名、県P連からは富永大輔県P連会長他副会長・理事ら21名が出席。県教委とPTAの立場から熱心な意見交換が行われた。最後に、県教育長が、今回出された意見を保護者の願いとして受け止めると述べ、和やかな雰囲気の中、会が終了した。



熱心に意見を述べる富永県P連会長

また、道徳教育総合支援事業では、4市町村は5、6年生に体験活動を通じた道徳教育を行っている。

学校の文化、この意識改革の取り組みとして、人事評価と広域人事を行っている。長い間の風土は簡単には変わらないが、システムから変えてやってみよう。

教師にもっと地域に目を向け、情報を開くよう指導している。問題教師をふるいにかける前にいかに資質を上げるかという視点で行っている。

学校評価 制度について

学校評価制度のうち、自己評価はすべての学校が必ずやっている。これは公表している。次に、学校関係者評価は、「やるべきこと望ましいこと」ものである。実施したら公表するようにしている。

教職員評価と 資質の向上について

県の人材育成方針を策定し、組織として評価し、動ける教師を目指す。校長の意識を高める必要がある。

家庭教育について考える



母親部長 豊田 有里

大分県PTA連合会の母親部は、各都市PTAから選出された16名で組織されています。各都市Pの活動報告や問題点、家庭教育や食育など、母親として考えなければならぬ様々なことについて活発な意見交換を行っています。今年度は、家庭教育についての講演と昨年に続き携帯電話の講演が変更されました。そこで、管理職試験でもこの資質を見ている。

母親部会

話について、お話を聞きました。親としてよりよい子どもとの係わりについて、県立看護科学大学の吉村先生の講義の中で、子育てする上で、自己効力・自己決定・関係性の三つがキーワードになるということを教わりました。携帯電話はこれからの社会の中で使用を禁止するのではなく、正しい使い方を教え家族でルールを決め親子で約束を守る大切さを学ぶチャンスになるのではと考えています。

みんながながえる コーナー

心を分かちあう力・涙

大相撲初場所、エストニア出身の大関把瑠都が初優勝しました。表彰式の優勝インタビューでは、大観衆と観戦中の母親の前で涙を流しました。慣れない日本での生活、そして厳しい相撲道、その中の苦労や努力、忍耐など、数々の思いが詰まった涙だったのでしょうか。

心を分かちあわせる力を持つています。ところで、子どもたちは、涙を見せることをどんなに思っているのでしょうか。涙がでないというのではありませんが、切羽詰まった状況の中の涙は、訴える力は強いと思います。流したくても、出来ないとしたら、何がそうさせているのでしょうか。そつとぬぐえば消してしまえますが、涙は、分かちあってくれる人を求めているのかも。みんなで考えるコーナー室長 岩尾 淳一

親子で話そう!

15点が優秀作品に 107点の応募作品から「大分県PTA連合会優秀賞」が決まりました。

ご応募ありがとうございました。次回もよろしくお願ひします。

えがおのわ 家族にもっと、ふやそうよ (藤井 俊介・大分市立横瀬西小学校1年生) おいしいな ばんごはんワッハッハッ 家じゅうひびくよ 笑い声 (江原 仁菜・大分市立金池小学校4年生) なやみ事 顔見て 気づく母 (羽田野 芽依・大分市立金池小学校4年生) ※優秀作品を順次紹介します。

県P情報

日友友好「少年少女の翼」(朝日PTA全国協議会) 主催 訪問先 中国・北京 日程 平成24年3月27日(火)31日(土)4泊5日 参加者 杵築市立山香中学校 和田 彩花さん(2年生) 玖珠町立玖珠中学校 松尾 朋樹さん(2年生)

平成24年度の任意保険の募集が始まります (3月1日より)

《申込期間》
4/1加入：3月1日～3月31日
中途加入：4月1日～4月25日

《補償期間》
4/1加入：4月1日～25年4月1日
中途加入：4月30日～25年4月1日

《保険の種類と保険料》
・育英補償(子ども総合保険)
Aコース：4,800円(一人目)
Bコース：3,540円(二人目から)
・自転車補償(自転車総合保険)
Cコース：930円(一人目)
Dコース：540円(二人目から)

同一世帯で複数のお子様が入る場合や両方の保険に加入する場合など、保険料が変わります。保存版パンフレットでコースをご確認の上、この機会にぜひご加入ください。

保険請求先 トータルアシスト(代理店) 0120-112-357
制度問合せ先 大分県PTA連合会事務局 097-556-9055

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

7/1までの保険 住まいの保険 車の保険

〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2 www.ms-ins.com

◆おことわり
「まなざし」「親ごころ」「村一報」は紙面の都合でお休みします。

▼編集後記
親の役割をしっかりと見つめ、子どもと共に親も育つ。自分を省みて、また前に進む。大人でも生きづらいつまなぐ。大人でも生きている現代。子どもが発する一言一言を逃さず深く考えていきたいです。よりよい子育ては、みんなの願い。手をつないで育てよう、大分の宝。

▼親子で体験を共有すること、共感すること、子どもだけでなく親の私にも必要なこと。